

第16回ごみゼロプラン推進委員会

日時：平成22年7月9日（金）13：30～15：30

場所：水産会館 4階 研修室

（開会挨拶）

- 略 -

（司会）

それでは、ここからは議事の進行を委員長にお願いいたしたいと思います。

広瀬委員長、よろしくお願いします。

（広瀬委員長）

皆さんどうもありがとうございます。

それでは、第16回委員会を始めさせていただきます。

今日は議題が三つあるのですが、一番大きなものは一つ目ということになります。

それでは最初の議題です。「ごみゼロ社会実現プラン」改訂項目について」ということで、まず資料1について事務局から説明をお願いします。

（事務局）

- 資料1説明 -

（広瀬委員長）

ありがとうございました。

資料がたくさんで、実際に説明していただくともっと時間がかかると思いますが、まとめて説明していただきました。要は、次回に出てくる中間案のたたき台のところでどういう方針でやっていくかについての方向を説明していただきました。

一つは数値目標ですね。これは基本的に達成されたものもあつたりしますので、変えていくというところがあります。それから二つ目ですが、2ページ目を見ていただきますと、基本的な取組、これはこのままやっぱりやっぺいできないとダメだろうということと、それから基本的取組は方向は変えないのですが、中身はすでに実現したのもあつたり、新たに先進事例が出てきたりするので、適宜盛り込んでいきたいと思います。

それから後ろの方、最後のところでちょっと事務局からお話があったのは、9月に1回だけじゃなくて、もう1回か2回ぐらい、会議を開かせていただかないと時間が足りないのではないかということで、これは一番最後のスケジュールの調整の中で、またご議論い

ただいた方がいいのではないかと思いますので、今の説明を聞いていただいて、この改訂の方向について、皆さん、ご意見がありましたら出していただければと思います。いかがでしょうか。

まず、じゃあ最初のところはいかがですか。ごみの減量化の数値目標について、今説明がありましたが、そういう方針でよろしいでしょうか。変えていくべきところは変えていくと。

まだ原案がないものですから、どういう方向というのは（これからです）

（岩崎委員）

すみません。具体的に数字というのはどのように設定するかというのが一番ポイントにならざるを得ないですね。それはこれから、先ほどの説明で言うと、積み上げでここまで行けそうだという目処が示されるという考え方でよろしいのでしょうか。

ただ、例えば事業系ごみの話がもうすでに削減率がほぼ30%行っているではないですか。その中で事業系ごみの削減に寄与しているものというのが、最後のこの表の中にありますね。これを一応積み上げていって、最後にその相乗効果みたいなもので30%まで行くんじゃないかと。そうするとこの各々の部分の削減の寄与率というのは、今もうすでにある程度出ているわけですか。

（事務局）

いえ、それはまだです。

（岩崎委員）

出てきたら、それで30%の中身が分かって、そしてそれを踏まえて、じゃあ今後は例えば50%にしようとか、そういう目標の掲げ方ということになるという理解でいいんですか。作り方としては。

（事務局）

特にその事業系のところにつきましては、岩崎委員におっしゃっていただいたように、目標の達成という部分が目前に来ている中で、更なる上積みというところについては一定検討をしていく方向かとは思っておりますので、そこはその作業の中で先生のおっしゃる方向ということもあるかと思っております。

（広瀬委員長）

このプランの最初の時は、それぞれの、例えばごみ有料化であれば、先進事例の他のところではこれだけのパーセント減りましたから、これくらい予想できますというふうにい

って積み上げていって、切りがいいところというのは、要は数値化できないものを含めて30%としているんですが、今後の場合は多分それだけではなくて、三重県の中でどれぐらいの市町が今取り組んでいて、この先どれぐらい取り組んでくれるかということを見ながら数値をまた微調整していくというところもあるかと思います。

それから事業系についてはよく頑張ってくださいなんですけれども、これについてはこれ以上伸ばせるかどうかというのは、やっぱり事業系のごみについての調査をして、どこまで伸ばせるかは考えて決めるということになるんですね。

そういうことでよろしいでしょうか。

他にご意見はございますでしょうか。

(服部委員)

実際に今の時点で達成がもう間近ということなんですけど、当時の部分は、経済の指標と非常に密接に関係していると。それでISOと同じで、ベースの経済活動にズレが出ると、いわゆる消費量も変わってきて、結果的に数値が変わってくるという中で、それなら県内にある事業所の今の状態をどうやって掴むのかということもチラッと出たような覚えがあるんですが、それがなかなかできないと。それでどうしたらいいのかなと。

それで、家庭系も事業系もそうなんですけど、置かれる環境がどんどん変わってきますので、その環境の実態が分からないと、その想定 of 想像すら全然つかないと。ですから、容器包装なんかの影響でいわゆる重たいものから軽いものへ、それでまた軽いものの中でも本当に簡易包装という形でどんどん減ってきていますので、そういう環境の変化の部分がどれぐらい影響があったかということが、数字がちょっと大きすぎたり、エリアが広すぎたりするので、普段の私たちが買い物していた中で、いわゆる「この人、買い物袋を使っているな」とか、「この人、段ボールの箱で堆肥化しているな」とか、そういうイメージだけでも湧けばいいんですが、ちょっと湧きにくいので、何かいい方法がないのかなということも、奥様方のご意見を聞きながら、何かいい方法はないのかなと。

(広瀬委員長)

ありがとうございます。

特にこの間はリーマンショックとか、いろんなことでそういう影響が出たのではないかと、そういう議論もありましたよね。そういういわゆる変動、予測の部分と、それから全体的に進んでいっている部分と両方あるので、どういうふうに考えますかということですね。

(服部委員)

その外的要因でその部分がちょっとまだ分からないので。

(事務局)

生活系の部分につきましては、例えば過去 10 年間のデータ等を見ますと、以前は景気動向が非常に高かったんですが、その時でもごみの量というのはそんなに変わらなかったと。生活系の部分については、確かに景気の影響は一定はあるとは思いますが、やはり大きいのは日々の県民の方々の生活のスタイルの部分というところで、そういうことも考えながら、他の事例等も見ながらと考えております。事業系はおっしゃっていただいているように、他の企業の生産活動の統計などをもう少し詳しく見ていく中で、そういったものとの変動と、あとごみの量との変動というところもございます。

おっしゃっていただいているように、もう一つ、現在、生産活動と景気動向が若干上向きではありますが、まだまだ厳しいという状況の中で、これからもし上がってきた時には、当然、生産活動が上がれば自ずとごみの量も増えて、特に事業系の部分については増えてくる可能性もあるということもありますので、ちょっとその辺りの部分につきましては、実際、こちらの委員の方等にもご相談させていただきながら、他の事例等も調査して、もう少し検討させていただければというところもでございます。

(広瀬委員長)

実は次の議題のところでは事業者の意識調査の説明がありまして、これと関連するところも出てきますので、そこでも議論させていただきたいと思います。今の点は考慮しながらやっていくと。

他にございますでしょうか。

(植村委員)

1 ページのところでございますけれども、(2)の「多様な主体の参画・協働」のところでございますけれども、この枠内に と書かれてありますね。その に対しては括弧書きで 58.2%、そうするとこの 2010 年度の速報値は が 59.4%、この枠内の括弧内の 58.2%というのが何か分からなかったのと、それから 2010 年度の速報値の数字に対して、目標値が短期として 10 年度が 80%から 60%と、こうございますけれども、10 年度はまだ 3 ヶ月経ったばかりですので、あとの月を換算してこの 80%とか 60%というのを目標としようということなんですか。

(事務局)

まず、こちらの資料1の1ページの(2)の　　のところに書いております、県民の率というところの括弧の数値でございますが、こちらはプランを策定したときに、今回これからご報告させていただく県民の意識調査と事業者の意識調査というのをさせていただいておりますが、目標数値はその時の調査の結果等を踏まえた数値、ここの括弧の中の数値は平成16年度の時の実績データとなっております。

この目標年度の設定の考え方ですけれども、当初このプランを策定する時には、今回ご参加いただいている広瀬先生をはじめとするいろんな方々にご参画いただき、いろいろ議論をしていただいております。実は、最終目標年度の数値目標は、90%という設定が当初の議論ではあったということで議事録の中では確認しております。ただ、いろいろと先生方にご議論いただき、やはりプランとして取組を進めていく中で、より多くの方々に取り組んでいただくためには、9割まで行ったのであれば、より高い数値目標で100%という数字がまず一つ設定としてあるであろうということ、最終年度の目標が設定されているという状況です。そこから短期・中期の目標というのは、いわゆる100%の目標の達成に向けて、短期がその約2割ぐらい達成できるような、例えば今の「ものを大切に長く使おうとする県民の率」を58%、ここの場合は丸めて数字を60%と考えた時に、約20%は上積みしていきましょうというふうな考え方で短期目標が設定されておりまして、中期目標はさらにそれを50%、約半分ぐらい高める。それで、最終的に目標の100%にしていくということです。まずは最終目標がありきという形で、取組を進めていく中では短期・中期と、途中での目標設定が要るであろうねということで、こういう例えば80%であったり60%であったりという数値の設定がされています。

(広瀬委員長)

ありがとうございます。

以前は、ハードの部分でしかちゃんとした根拠がないと数字が出せなかったんですが、意識の点についてはやはり高い目標を掲げていきましょうということで立てたものなんです。過大な見積もりで(現状は)低いんですけど、これはどちらかと言うと、低いから頑張りましょうというふうに考えていただいて。これからも頑張りましょうと。

ただ、これについても、もしあまりにも目標と実績の値が違いすぎれば、100%に向けての中期目標についての数字を少し下げていくということもあり得るか。それはまた次回なりに議論できればと思います。

他にございませんでしょうか。

(事務局)

今言われた、この括弧の現状値というのは分かりにくいので、平成16年度の「現状値」であることを書いて、分かるようにさせていただきます。

(広瀬委員長)

他にございますでしょうか。

よろしいですか。

こちらはこういう形で進めて、また具体的な案が出ましたらご議論いただくと。

あと、基本方向と、具体的な取組の問題については、よろしいでしょうか。新しい事例があれば取り入れていくということで、基本方向は変えないと。5年経ったからと言って変えないということですが。よろしいですか。

それでは、そういう方向でよろしく願いいたします。

あと、非常に細かいので、ぜひ次回までに見ていただいて。例えばレジ袋の有料化というのは、これを作った当時は熟度が「中」だったんですね。まだなかなかだと思っていたら、ほぼ100%、レジ袋の有料化は進みましたよね。そういう点で予想外にいいものがありますし、やっぱりなかなか進まないなというところで生ごみがあります。その辺もこれから見えていかないといけないと思いますが、ぜひ次回の数値の改訂や中身の問題などで、それまでに参考になることがあると思いますので、見ていただければと思います。

それでは、議題1についてはよろしいでしょうか。

この方向で進めていきたいと思います。ありがとうございます。

スケジュールは一番最後のところでまた議論していただくということで、議題2に進めたいと思います。議題2は、22年度の県民意識調査と事業者意識調査、それからごみの組成分析調査の速報値が出てきましたので、それをこれから報告していただきたいと思えます。よろしく願います。

(事務局)

- 資料2、資料3説明 -

(広瀬委員長)

どうもありがとうございました。

県民アンケートと事業者アンケートと、それから組成分析調査の速報値について、どうぞご質問やご意見のある方はお願いいたします。

(植村委員)

たくさんの報告を聞かせていただいておりますけれども、なかなか短時間でこれをパッとと言われてもページを追うだけでも大変でございます。私らはページをめくるだけでも大変ですので、本当はもう少し、時間がないでしょうけど、ゆっくり言っていただきたいなということをもまず感じました。

それから、ざっとこれを読んでいただいた中では、若い方が全然プランのことも知らないというのは本当に残念だと思います。やはりまだまだ、県からのPRもそうだけど、市町の担当者の方々がもう少しPRするというのが、一番身近で、手近でいいんじゃないかなと思いますし、県がやっているからと言って、市町が知らん顔をしているようでは、これは残念だと思いますしね。もっとやっぱり自分たちの今後の生活のことですから、県から市町もしっかりとPRをしてくれということを言うわけにいかないんでしょうか。これは県のごみゼロ推進になっておりますけれども。

それから、事業所へのアンケートでも、これは報告がありましたけど、2,000件の事業所を対象にやっておりますけれども、回収率が16.3%というのは、紙面を使ってごみの減量と言いながら、これが紙の無駄になっているのかなと、そういうふうな感じもいたします。やっぱり一生懸命取り組んでいただいているのを、何とか市民の方、事業所の方にしっかり反応がなければ意味がないですし、反応がないのに「やれ、やれ」と言っても、それはなおさらできないんじゃないかと思っておりますので、このところはやっぱり力を入れていかないとダメじゃないかなと私は思いますので、お願いします。

(事務局)

ありがとうございます。その説明の部分につきましては、いろいろ準備の都合等でこちらの不手際というふうなことで、大変誠に申し訳ございませんが、次回以降なるべくもう少し分かりやすい形でご説明させていただこうと思っております。

まず植村委員からもご提案いただきました市町の方々へのもっと働きかけという部分でございます。当然、一般廃棄物のところは市町でいろいろ取組をいただいているところに、県といたしましても、いろいろとご協力等お願いをしております。

一部の市町の中では、例えばいわゆるごみの分別カレンダーなどの中にごみゼロキャラクター等を載せていただいたり、県からステッカー等をご提供させていただいて、ごみの収集車等にご掲載をいただいたりという形で、これまでも市町の方には十分にご協力等もいただいておりますけれども、なかなかそちらが伝わっていないという部分につきましては、県の努力がまだまだ足りないところもあるかと思っておりますので、そこ

の部分については…。

(植村委員)

住民に市町も一生懸命言っているけど、聞く耳を持たなかったら何とも仕方ないんですけどね、これだけ一生懸命やっているのに、アンケートの結果がね、これは全県じゃないけれども、だいたいそういうふうな今の現状だと、どこでやってもそうかと思えますけれども、もっとやっぱり皆さんに、若い方に特にね、協力していただくようにしないと、わりと70代、60代、昔の方はやっぱり「もったいない、もったいない」ということで、できるだけごみを捨てないようにしてみえるでしょうけれども、もう今の若い方は本当に、言って悪いですけど、もう本当にそういうところは、自分の今の生活が良かったらいいという感じだと思いますので、もっとPRを頑張ってもらわないと、目標値を達成するのは大変だと思います。

(事務局)

今、これまでの取組の中で、まずは子どもたちを対象ということで、例えば一昨年は小学校4年生を対象にDVDを作成したりパンフレットを配ったりという形で、まず主に小学生への啓発を行ってきたその年齢層と、今回の県民アンケートは市町の選挙人名簿から抽出しているところがございます、要するに成人されている方々が対象となっております。これまで県が取り組んできた、主にターゲットとしてきた年齢層が若干低くて、今回のアンケートの部分にはなかなかその取組も反映されにくいのかなと。

ただ、当然、子どもさん方の背景にはご両親の方もみえますので、本来でしたらそういった30代とか40代の方々の認知率等も上がってくるという一定の期待もしておりましたが、ちょっと今回のアンケートについてはこういった結果になっていると。

ですので、やはり今後の取り組みにつきましては、当然、従来からの児童、子どもの方々への周知という部分も合わせて、さらには若年層、20代、30代の方々と働き盛りの方にも訴求できるような啓発等にも取り組んでいく必要があるのかなということで考えているところでございます。

(広瀬委員長)

ありがとうございました。

他の点で何かございませんでしょうか。

(太田委員)

結局このデータが示しているとおり、例えば資料2の9ページですと、下がっているん

ですよね。「使い捨ての商品が身の回りに溢れて」というところで、いわゆる疑問を感じているかどうかということに関して、どんどんと落ちているというのが結果ですし、それから「手間やコストをかけてでも、できるだけ資源として有効利用すべき」というのも、大変なスピードで落ちているわけですよね。だから、今まで取ってきた手だけではダメだという話だと私は思います。

例えばNHK津とか三重テレビであるとか、やっぱりマスコミを上手に使わないと、多分普通のパンフレットとかそれだけでは見ません。溢れていますから、今は。だからよっぽど訴求力のあるものをきちんと出していかないと。それもお金がないですよね。だからどうやって上手にそれをやるかというのは、本当に知恵を使ってそういうマスコミの人の気持ちをグッと引き付けるということが大切なんじゃないかな。その中で、ゼロ吉君なんかを上手に刷り込ませていかないと、これは、なかなか改善しないと思います。

小学校4年生にやっていただいたわけですよね。だから、多分彼らの頭には将来にわたってずっと残っていきますよ。ただ、それが表れてくるのが今から10年、20年先です。だから、やっぱり小学校、中学校、高校の世代に対して、お金をかけずにうまく環境教育をどれだけ教育委員会とともにやっていくかというのも一つの大きなポイントだろうなと思います。やっぱり今の20代がそのへんのところがまったく分かっていない、関心がないというのは、当時そういうふうな教育だったからです。だからその辺りはしっかりとやって、行動としてオール三重県庁として行動を取っていただかないと、その数字というのは上がらないと思います。以上です。

(広瀬委員長)

ありがとうございます。

いかがでしょう。

(事務局)

おっしゃるとおりです。それで確かに財政は非常に厳しいんですが、やはり知恵をどう使うかというのが一番問われるところだと思いますので、今、「ゼロ吉」は社会見学で来ていただける時に、ごみゼロ推進室ではできる限り、県庁の屋上で対応させていただいており、先生や子どもたちには非常に好評です。そういったものもお金を使わずにできるということですので、次回以降も何かできないかなというのは考えていきたいと思います。

それで、このキャラクターの「ゼロ吉」の認知度が県民の間で低いのは、やはり、今、子どもたちを中心にやっておりますので、このアンケートではその部分がちょっと

見えないというところがあります。そういった意味では、あと数年したらこの辺りがもう少し伸びる可能性があるのかなということは思っております。

それから「ごみゼロプラン」の認知率ですけれども、ここはちょっと、ごみ自体は減っておりますけれども、このプランの認知率は落ちているというふうな現状がございます。この「ごみゼロ社会実現プラン」というプランにつきましては組織関係者、事業者は一般の県民より認知率があるということで、また、行政関係とかその組織に携わっている方についても認知率がありますが、県民の方でも「ごみゼロ社会」というような言葉自体については知っているけれども、「プラン」と付くとその中身が問われますので、知らないというような回答もあるのかなということも思っております。ただ、指針ですので、できるだけ知っていただくということが大事ですので、そのPRにも努めたいとは思っております。

(広瀬委員長)

ありがとうございます。

いろんな機会ごとにこういうPRをしていかないと、なかなか認知率は高まりませんので、今回ちょうどこの見直しをした時に、全県に対してこういう形で見直して、これからまた頑張っていきますというPRをいろんな形で考えていただきたいということですね。ありがとうございます。

(太田委員)

もう1点よろしいですか。

企業の方がごみの量が減っていくというのは、これはもう不景気ですから、とにかくコストダウンということから考えると、当然そういう社会的な構造というのは、放っておいても生まれます。とにもかくにもコストダウンの第一歩はごみを出さないということですから、これはもう当然そのような方向に行くと思うんですね。

じゃあ、レジ袋がなぜ成功したのかと言うと、はっきり申し上げて5円取るからですよ。たった5円なんだけど、取られたくないんです。主婦の感覚としては。だから、それだったらマイバッグ持っていこうかという話だと思います。

だから私は本当に、ごみの有料化をなるべく早くきちんとコンセンサスだけ得てやれば、それは必ず成果としては上がってくると思いますね。きれいな、高邁な理想も絶対大切なんですけど、やっぱり基本的には自分の財布からどれだけお金が出ていかないかということに対してみんな一生懸命になるというのが、私は人間のもともとの性格だと思いますので、その辺りのことを政策に反映されたらいいのではないかなと思います。

(広瀬委員長)

実は「ごみゼロプラン」を策定する前の最初の調査をやった時に、それほど有料化に肯定的な人が多くはないのではないかと思うと意外に多かったというのが、有料化に対する考え方の数値ですし、今も理解があるんですね。

レジ袋についても、実は最初の頃、有料化は抵抗があるけれども、これは先ほどのご意見ですが、やっぱり5円取られるような形の有料化は嫌だという意見があるんだけど、特に伊勢のあたりで運動していただいて、その中で頑張っていただいて設定したことで、5円が生きてきたというふうに考えれば、現金であるということも大事ですけど、やはりいろんな形で頑張っていただいた評価もあるのかなというふうに思います。ありがとうございました。

他にありませんでしょうか。

(服部委員)

本当にこれ、組成調査から資料の作成から大変だったと思いますので、頭が下がります。それで、このアンケートの部分でちょっと思ったんですが、最近よくテレビでも何でもそうなんですが、いわゆる懸賞品を付けたりとか、いろんな形のやり方があると思うんですね。与えられた予算の中ですから、できるかどうかは別にしまして、今、皆さん携帯電話を持っていますよね。例えばゼロ吉君のようなキャラクターを待ち受け画面として入れてもらって、ここの登録の企業さんにそれを見せたら、企業さんの協力で何かサービスをしてくれるとか、そういう考え方もあるかも知れません。ほかに、県下の地震情報とか災害情報とか緊急連絡がありますよね。その部分でゼロ吉にものを言わせるとか、いろんなやり方が考えられるのかなと。そのアドレスをうまく利用者の方に許可をもらった上で、利用をすれば、もっと値打ちな形で比較的短い時間で広範囲に広がる可能性があるんじゃないかなと思ったんですけど。

それで、確かにこれは、ある程度返してもらわないと非常に困難で、「何ももらわずに何でこんなことをせんらんのや」とか、私のところもやったことがあるので分かるんですが、FAXで送ったりすると紙がもったいないとか、できるだけそうならないように、パソコンを使って電子ベースですれば、非常に今の時代は効果的なのかなと。

それなら必ず相手の方が特定できますので、変な返事も返って来にくくなることもあるのかなということも思いますので、またご検討いただければと思います。

(広瀬委員長)

ありがとうございます。回収率を上げていこうということで。

(西村委員)

正直言って、行政からのアンケートというのは本当にたくさん来ますね。私はほとんどアンケートを書いているんですけど、正直言って、見落とすところが結構あります。多い時ですと1日3件、4件ありまして、それも業務の途中でやっている訳なんですけど、ちょっとやり方を変えていただいたほうが、もっと回収率が上がるんじゃないかと。

(広瀬委員長)

例えばどういう方法とか？

(西村委員)

やっぱり先ほど服部委員がおっしゃったように、電子媒体を使ったりするとか。

(広瀬委員長)

やっぱり電子の方がやりやすいですか。

(西村委員)

電子の方がやりやすいですね。

(太田委員)

書いて、ファックスで送るのはまだしも、封筒に最後に「御中」と書いてね、これがもうたまらんという感じなんですよ、やっぱり。

(広瀬委員長)

最近では、一般の調査もネット調査が増えているんですけども、ただ、ネット調査の場合はモニターがありまして、そこに送ればいいんですが、でも、事業者は、ここの委員会だけじゃなくて、そこら中から来るので、それはそれで大変で、回収率も落ちてくるので、今のご意見を何らかの形で、行政としてはちょっとそのへんも今後考えていただきたい。

貴重なご意見をどうもありがとうございました。

(服部委員)

何をするにも、皆さんの意識をとらえないとうまくいかないですけど、アンケートをもらうと、どういう意向でこういう質問になっているのかなと、まず一生懸命読んで理解しようとするよね。それで、簡単な内容ならいいんですけど、分からないとそのまま書かずに送ったりもしますので、その意図が非常に分かりやすく短く、いわゆる設問数もある程度限ってやらないと、ある程度こういう規模が大きなものでしたら、何かの形でちょ

つとしないと。自動車なんかのアンケートの場合は完全に委託してあって、受託したところが何かの形を考えて、回収率を 20%や 25%余分に上げるような仕組みをやってみるみたいなんですけど、それができるかどうかは別にしまして、ちょっと工夫をされたほうがいいような気がします。

(広瀬委員長)

ありがとうございます。そうですね。多分行政はできるだけたくさんいろんなことを聞いて、それを参考にしたいと思うけれども、答えるほうとしては仕事があるので、できるだけ必要最小限にしたいと。

(西村委員)

まず聞かなければならないことから優先順位を付けていただくといいですね。

(岩崎委員)

いろいろとアンケートの手法上の課題等が今ご指摘がありましたけれども、とは言え、16年、19年、22年と3回やっているわけだから、先ほどご指摘になったように、問8で「ごみは手間やコストをかけてでも、できるだけ資源として有効利用すべきだと思いますか」という問いに「あまりそうは思わない」と「まったくそうは思わない」という人が7%になるのかな。そうすると、ざっと計算して200人ぐらいいるのかな、こうやって答えた人が。そうすると、この7%がどういう特性を持っているのかというのは、200人そういうことを考えている人はどういうところに住んでいて、それで何歳ぐらいのどういう人なのか。それとあと16、19、22年とこの「ごみゼロプラン」についてのアンケートをやっているわけだから、そういうところのごみの回収の方式はどういうものなのか、RDFに持っていつているのか、それともきちんと分別しているのか。何が、有効利用すべきと思わないという200人の意思を作っているのか、もうそれができるようなストックを県としても持っていらっしゃるわけですから、このアンケートはせっきく皆さんからいただいたデータなんだから、そういう要因分析というのはぜひ、変な話だけど、縦、横、斜め、後ろぐらいを見ながら、もう使い尽くすぐらい分析し尽くさない、もったいないなど。

そして、その分析結果がこの「ごみゼロプラン」の今度の計画の重点として、ここに訴えかけをしていこうと。残念ながら20歳以上が調査対象だけど、多分容易に想像がつくのは、うちの学生なんかを見ていてもそうだけど、20代の単身の男性というのはポンポンものを捨ててしまうわけです。先ほどの話ではありませんけれども。じゃあそういう対象に対してどういう訴えかけ方があるのかというのをきっちりと示せば、そうするとそれは

こういうことはやったほうがいいと、県として市町に助言するのも説得力が出てくると思いますし、もう少し言えば、県は4,000人いるわけで、そのブロック別ぐらいで、あるいはさっきの収集と最終処分の方法別ぐらいでちょっと分類してみたら、意識にどれだけ差があるのかというのも、もう3回目をやっているんだからできるはずですよ。そうすると、それが先ほどの、プランの四つの項目の、これのどれに寄与が大きいのかという評価にもつながるんじゃないかなと思いますので、綿密に、せっかくのこのデータを使っていただければと思います。

ただ、分析はやりすぎるとどんどん非科学的になっていくので、クロス集計を細かくやればやるほど、200人でもちょっと厳しいなと思うぐらいですから、二重三重のクロスをかければどんどん少なくなっていきますのでね、そこは注意しないといけないんですけど、ただおおよその姿が見えると、そこを攻めていくという手法が見えるので、そこをお願いしたいと思っています。

(広瀬委員長)

ありがとうございます。これはコンサルに委託しているので、その業務内容が決まっていますから。研究者の場合はいろんな多変量分析ができるんですが、大事なところは多分クロス集計ぐらいはやっていただけるんですよ。ですから、先ほどご報告していただいたところも、年代別と認知率のクロスをやっていただいたりして分かったことがありますので、今、岩崎先生が言われたような分析をちょっと調べていただいて、今後の見直しの参考になればということで、よろしくお願いします。

(西村委員)

そのアンケートの調査結果というのは、僕らも閲覧できるんですか。

(広瀬委員長)

その点はいかがですか。

(事務局)

こういった取りまとめの部分については最終的には報告書としてホームページ等で公表しております。過去のデータ等もすべて公表しておりますので、ご覧をいただけます。

(西村委員)

おそらくうちが答えたのはこの事業所のところですが、この二つのアンケートを見させていただいて、我々事業者としてはこの県民アンケートの方が非常に参考になりますので、どこかで見れるようにしていただくと。

(広瀬委員長)

委員の方にも、あるいは誰でも、報告書は、ホームページには出ないんですかね。

(事務局)

出ています。

(広瀬委員長)

出ていますか。じゃあまたその時に紹介をしていただければ。

はい、ありがとうございます。

他によろしいでしょうか。

(太田委員)

今ここで議論されたというのは、多分そのアンケートの結果についてということは、今日このプランの九つの基本方針の中の、とにもかくにも意識を高めたいというふうなお話だったわけですね。そこがポイントだと思うんです。だから、それに対してどういう戦略を取るのかということで多分皆さんにいろいろご意見をいただいたと思うので、ぜひとも皆さんの気持ちがそちらにグッと向かうような戦略を取っていただければありがたいなと感じました。

(広瀬委員長)

ありがとうございました。

皆さん、ご意見がなかったんですけど、組成調査も非常に貴重なデータで、これはもともと京都大学の名誉教授の高月先生が始めたやり方で、出した時点でサンプルを取ってそこでの組成を見て、どこまでどういう部分がまだ資源化が可能かというのを見つけていくという、非常にいい方法なんですね。

こちらは実は、実際にいろんな取組をしているわりには、組成の中にあんまりそれが反映されていないという結果だったんですね。だからその辺もちょっとなぜなのかということも少し担当していただいた方にお話を聞いたりして参考にされていいと思います。

(高屋副委員長)

私、電話しましたよね。この組成調査は誰がするのかと。ぜひとも市町の担当したところでもらったら一番有効的だと言ったんですけど、結局これは業者がしたんですか。

(事務局)

そうですね。業者にお願いして。

(高屋副委員長)

そうですか。もっと早く気が付けば良かったんですけど、私、こういう時というのは、絶対に住民がすべきだと思う。その住民たちが自分たちの生活を知る一番の手段だと思いますので、こういう調査以外にも私はしてもらべきだと思う。それはもう一つ理由があって、レジ袋は成功しましたよね。でも、その人たちは太田委員がおっしゃったように5円だったからしたことであって、これを自分たちが削減したから石油がどれだけ減ったのか、どれだけ助かったのかということは全然分かってないんですよ。結局それを分かってくれないと、ごみのゼロ、ひいては資源の大事なものを保護するということにはなっていないので、ただただ上面だけでなく、大元をもう少し掘り下げたところでしていただかないと、住民さんたちには届かないと思う。

それと、一番私がショックだったのは、21 ページの問 35 の「いずれにも参加したいと思わない」という県民さんの意識の、この底がないということだと思ったんですけど。やはりこういうところから出てくるのではないかなと、私は思いました。

多分、県民として市町民としては一生懸命やっているとは思いますが、やはり全体として考えた時に、何が大切なのかということをもう一度考えていただかないと、このプランはいけないと思うんです。そのためにも、基本的な考え方というのももう少し県民の皆さんに分かるように示していただかないと、ただただ書いただけのプランになっていくと思います。

(広瀬委員長)

ありがとうございます。

この取組の中にも市民参加で基本計画を作るというのはありましたよね。その時には、大体、今委員から言っていたように、住民自身で組成調査をして、ごみ減量の計画を作っていくというやり方を取っていますから、そういうところからできるだけいろんな事業でやっていただけるように...

ただ、組成調査を住民でやってくれというのは、何らかの準備がないとできませんので、今回はこれは経年で見ていくためにやらせていただきましたが、ぜひ今後、基本的な取り組みの時にそういうことも含めてやっていくということで考えていただきたいと思います。

他に。

(事務局)

先ほど副委員長さんがおっしゃったとおり、その行動が変わるとというのが、単なる経済原理だけで変わるというのはやっぱり寂しいことです。そこに一番大切な、基本的な価値

観と言うか、大事にするものは何かというようなことが理解されて初めて行動が変わっていくというような形に持っていくことがやはり大切だと思いますので、今言われました基本的な考え方とかそういう大元の根本的なところをよく理解していただけるようなPRというのも考えていきたいと思っております。

(広瀬委員長)

他によろしいでしょうか。

(太田委員)

組成調査の中の、例えば厨芥類のところだけ見ているんですが、他の市はそう大して変わっていないんですが、菰野町さんだけ激減しているんですね。割合が変わっているんです。これはどういうことなのでしょう。名張市さんもかなり減っています。この二つだけがかなり減っているんですが、これは何か理由は掴まれているのでしょうか。

(事務局)

調査時期が異なるということがありまして、21年度は10月、11月にしましたが、菰野町さんのごみが草とか、剪定枝とか、それが非常に多かったのですが、それを除かずに分析したので、全体の割合から言うと、厨芥類が減ったような傾向が出たということです。

今回の22年度については、そういう特殊なごみは除いてやっていますので、今後同じような条件でもう一度分析をし直そうかと考えております。

(広瀬委員長)

じゃあぜひお願いします。ありがとうございました。

他によろしいでしょうか。

こういう調査は貴重な調査で、お金も時間も労力も使っておりましたので、ぜひ活かしていくようにしていきたいと思えます。

また、委員の皆さんもこの調査結果のことについての質問やコメント、あるいはこういうことをやって欲しいということがありましたら、ぜひ事務局にお寄せいただければと思います。

それでは、議題2はよろしいでしょうか。

ありがとうございました。

それでは、先に議題3について説明をいただいて、スケジュールの話などは最後でしたいと思えます。

では、資料4の説明をよろしく願いいたします。

(事務局)

- 資料4説明 -

(広瀬委員長)

ありがとうございました。

ということで、もう一度駅の看板を見ていただきますように。ゼロ吉もぜひ貸し出していただきますように。

こちらはよろしいですか。

はい、ありがとうございます。

それでは、「その他」というのは、実は議題1でちょっと報告がありました、資料1の11ページをちょっとご覧ください。こちらで「改訂に係る作業スケジュール(案)」ということで、事務局からもう一度簡単に日程の調整などについてご説明いただけますか。

(事務局)

それでは、事務局から、資料1の11ページの部分につきまして改めてご説明をさせていただきます。

プランの改訂に係るスケジュールでございます。まず先ほど、今回ご審議いただきましたプランの数値目標の検討や、基本取組の改訂等に係る部分の先進事例調査の報告という部分を8月上旬。続きまして、そういった数値目標等の検討を踏まえまして、プランの改訂に係る中間案の提示という形で8月中旬という、2回ほどのご検討いただく場を設けていただければという形で、事務局で考えているところでございます。ただ、8月中に2回の開催ということになりますと非常に厳しい中で、こちら事務局の一つの考え方ではございますが、まずプランに掲げる数値目標の検討、先進事例等の調査報告等の部分につきましては、まず広瀬先生、高屋副委員長、岩崎先生をはじめ学識者の先生、そういった方々を中心にお集まりいただくか、もしくはこちら事務局からお邪魔をさせていただきまして、こちらの案をご提示させていただきながらの検討ということを考えております。

そういったことを踏まえて、8月上旬等からまた各委員の方々にも意見等のご照会をできればということと、もう一つ、8月中旬の部分につきましては、そういった検討のことを踏まえまして、実際、プランの改訂の中間案をご提示させていただきまして、このような委員会という形でお集まりいただければというご提案でございます。

(広瀬委員長)

ありがとうございます。お盆前後の忙しい時に2回も開催するのはちょっと難しいとい

うことで、今の事務局の提案ですと、上旬のところについては我々委員長、副委員長、それから学識経験者の金谷先生、岩崎先生などを中心にやらせていただいて、ご報告は全員の委員の方にさせていただきますが。そういう点については、これはよろしいでしょうか。

じゃあそういう形で。

その次は、どうしても委員会を開かせていただきたいということですね。8月下旬に。

(事務局)

ただ、お盆ということもございますので、できましたらということなんですが。

(広瀬委員長)

これは、日程はあとでまた欠席された方も含めて全員にお聞きすることになるんですか。

(事務局)

今のところ、事務局側の部分のあくまでも案というところですが、例えば8月のお盆を明けてすぐの週ではございますが、16日の週から23日の週のところで、別途日程調整をさせていただきますして、そこでまたお集まりいただければということで考えております。

(広瀬委員長)

本当にお忙しいところ申し訳ないんですけども、予定よりも1回多めにやらないと、ちょっと作業が進まないということですので、どうしても都合のつかない方はまた…。

(事務局)

非常に窮屈な日程で、できれば今申し上げました8月16日の週に、これは委員会として開催させていただきたいということで、そうなると当然、それが第17回委員会になって、さらにこの9月上旬には第18回目という形になりますので、そういう形でできたらお願いしたいと。

(広瀬委員長)

何でこんなに迫るのかと言うと、先ほど言っていた廃棄物処理計画と県との関連で、できるだけ早めにやっていただいて、その擦り合わせが必要だということなんです。

(事務局)

そうです。申し訳ございませんが、他の計画もございまして、ご存知のように県は今回三つの計画を同時進行で進めておりまして、そのうちの一つが廃棄物処理計画になっておりまして、それを全部審議会にかけていくことになりまして、日程を合わせる必要がありますので、本当に窮屈な日程で申し訳ございませんが、ぜひ可能であればお願いいたします。

(広瀬委員長)

県の廃棄物処理計画には、当然ごみゼロプランが関連してきますので、そちらも同じように進めさせていただきたいということですね。

じゃあ、どういたしましょう。今日言っていただいて、ということもあると思うんですが、もう一度メールで出していただいて、ご都合を聞かせていただいて。

(事務局)

先生方のご都合によって、場合によってはスケジュールの都合上一部先生方にお集まりいただくということになってしまう可能性があります、まずは日程を調整させていただければと思います。

(広瀬委員長)

では、そちらの方を事務局から問い合わせさせていただきますので、よろしくお願ひします。
ということでよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

「その他」ということで何か事務局からありますでしょうか。

よろしいですか。

委員長の不手際で、たくさん議題がありまして、なおかつ報告すべきこともたくさんあったんですが、すべてについて議論ができなくて、申し訳ありませんでした。それと、忙しい時に集まっていたいて、また一つ余分に増えそうですけれども、どうかご協力をよろしくお願ひします。

それでは、今日は5分ぐらい早いかも知れませんが、特にないようですので、これで16回目の委員会を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

(終)